

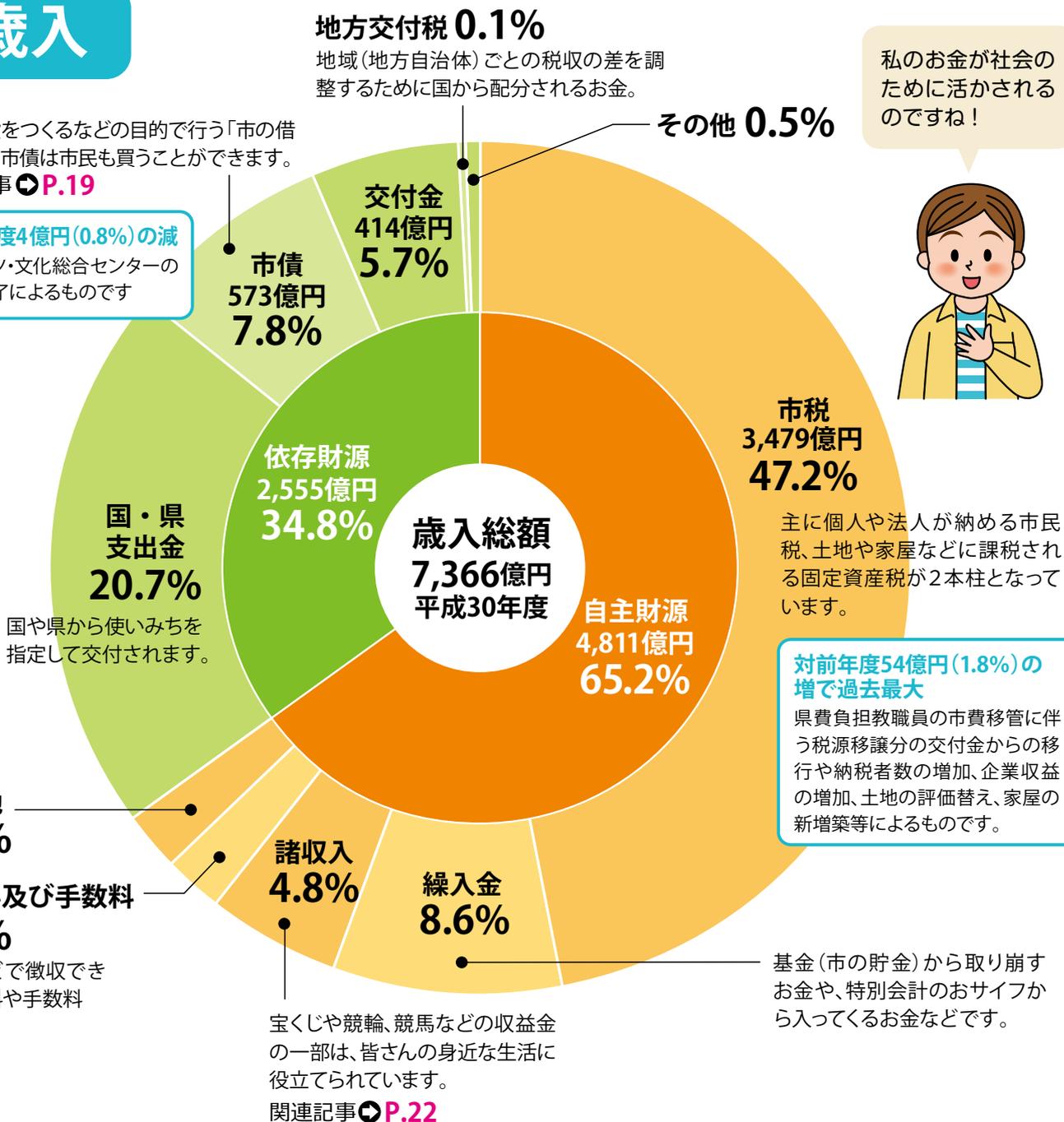
一般会計は市の予算の中心。最も

収入と支出のことを市の財政では「歳入・歳出」と呼びます。より良い地域社会を実現するため、市民が納める税金などのお金をあらかじめ使い道を決め計画的に役立てる、それが予算です。なかでも一般会計予算は最も金額が大きく、幅広い分野を含んだものです。

歳入

市の施設をつくるなどの目的で行う「市の借金」です。市債は市民も買うことができます。
関連記事▶P.19

対前年度4億円(0.8%)の減
スポーツ・文化総合センターの
整備完了によるものです



ことばの解説②

自主財源と依存財源

「自主財源」は市が自主的に集めることのできるお金。この割合が高いほど自主的な運営がしやすくなると考えられます。
一方、「依存財源」は国や県の考え方を反映させ、決まった額を受け取るお金のことです。

大きな「おさいふ」です。

POINT

● 予算規模 7,366億円は、対前年度278億円 (3.9%) の増で4年連続過去最大の規模
過去の減債基金借入金 (354億円) を除いた場合 7012億円 (対前年度132億円 (1.9%) の増)

● 減債基金新規借入金196億円

厳しい財政状況においても、「最幸のまちかわさき」の実現に向けた取組を切れ目なく推進します。

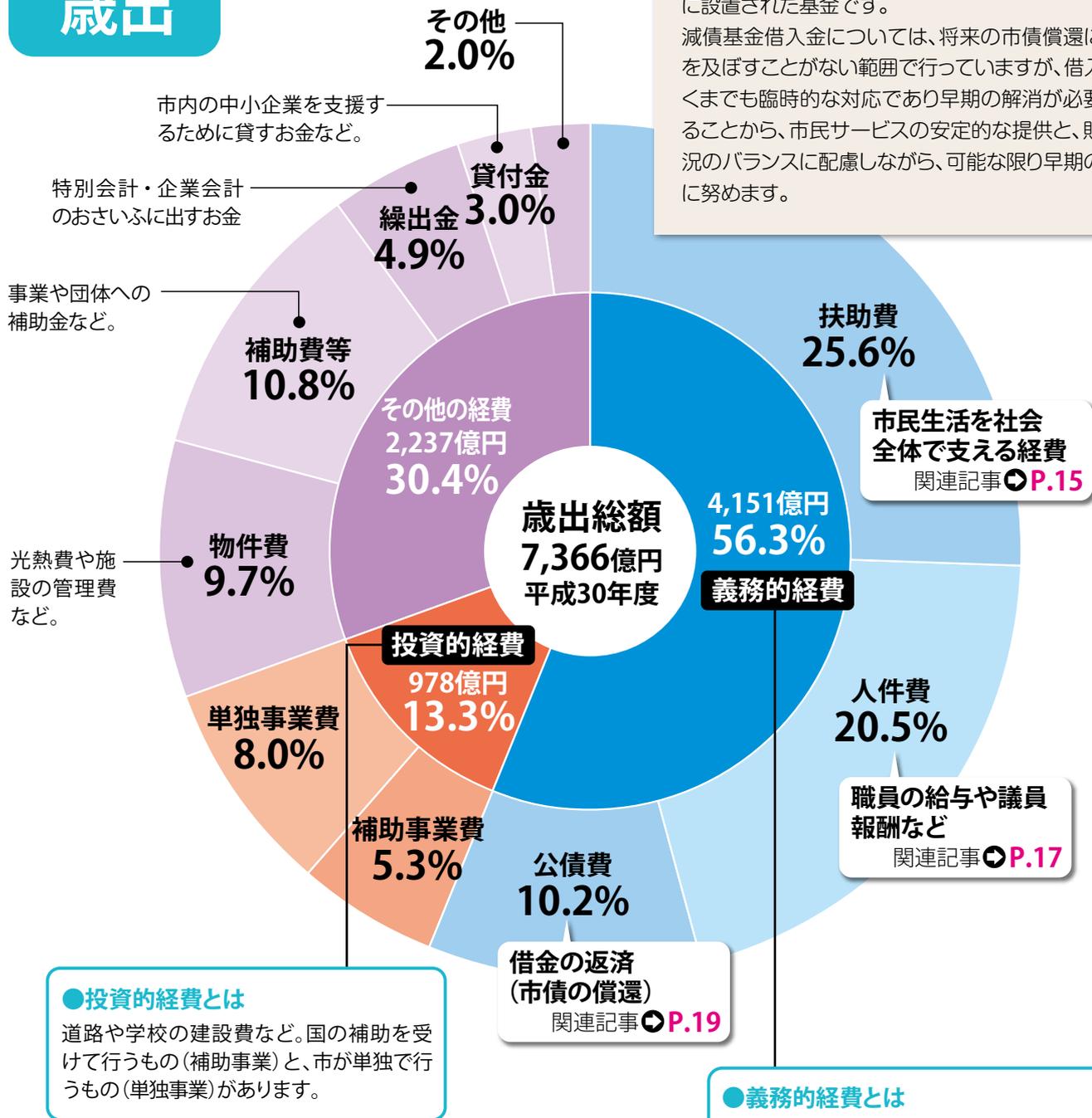
● 減債基金借入金の返済について

減債基金とは、市債の償還財源を確保し、財政の健全な運営に資するための資金を積み立てることを目的に設置された基金です。

減債基金借入金については、将来の市債償還に支障を及ぼすことがない範囲で行っていますが、借入はあくまでも臨時的な対応であり早期の解消が必要であることから、市民サービスの安定的な提供と、財政状況のバランスに配慮しながら、可能な限り早期の返済に努めます。

平成30年度 一般会計予算

歳出



義務的経費はいわゆる「固定費」と考えることができますね。

